

# Dr.浅岡の 本当にわかる 漢方薬

## 目 次

はじめに .....	3
ことわり .....	5

## 第1章 漢方薬を理解するための基本事項

<b>1 漢方薬の起源から現在まで</b> .....	12
<b>1</b> 生い立ち / <b>2</b> 薬としての成長 / <b>3</b> わが国への輸入 / <b>4</b> 明治以前, 以後	
<b>2 漢方薬の構造</b> .....	16
<b>1</b> 漢方薬は生薬の複合剤 / <b>2</b> 漢方薬は生薬を用いた約束処方 / <b>3</b> 複合 するということ / <b>4</b> 複合する理由	
<b>3 漢方薬の多様性と理解の仕方</b> .....	21
<b>1</b> トッピングによるバリエーションの拡大 / <b>2</b> 漢方薬の理解の仕方	
<b>4 生薬の理解の仕方</b> .....	25
<b>1</b> 生薬には必ず自覚症状を改善する働きがある / <b>2</b> 薬性 / <b>3</b> 守備範囲 / <b>4</b> 薬能, 薬性, 守備範囲の組み合わせ / <b>5</b> 生薬はすでに混合物 / <b>6</b> 生 薬の evidence	
◆ 帰納法と演繹法 .....	30

## 第2章 東洋医学の尺度

<b>1 診断</b> .....	34
<b>1</b> 漢方薬の適応は西洋医学の病名では表現できない / <b>2</b> 東洋医学の診 断 / <b>3</b> 状態を表現する用語は日常用語 / <b>4</b> 状態を表現する用語の基本 / <b>5</b> 状態を表現する用語の組み合わせ	

<b>2 治療</b> .....	41
<b>1</b> なぜ状態を表現しなければならないか／ <b>2</b> 状態で治療を行う利点／ <b>3</b> 東洋医学の治療概念／ <b>4</b> 状態が診断にあたるということ／ <b>5</b> 適応病 名の謎	
<b>3 東洋医学に特有の概念</b> .....	47
<b>1</b> 気という概念とその異常／ <b>2</b> 血という概念とその異常／ <b>3</b> 水という 概念とその異常	

## 第3章 診療の手順

<b>1 診察</b> .....	56
<b>1</b> 診察のとらえかた／ <b>2</b> 診察の方法と種類／ <b>3</b> 診察の順番／ <b>4</b> 所見採 択の優先順位	
<b>2 診察と薬剤との関係</b> .....	60
<b>1</b> 約束処方を選ぶ工程／ <b>2</b> 舌診／ <b>3</b> 脈診／ <b>4</b> 診察の手順	

## 第4章 主要な生薬と処方

<b>1 甘草</b> .....	70
<b>2 桂枝</b> .....	74
<b>3 麻黄</b> .....	79
<b>4 附子</b> .....	91
◆ かぜの考え方.....	94
<b>5 細辛</b> .....	98
<b>6 茯苓, 蒼朮 (白朮), 沢瀉, 猪苓</b> .....	101
<b>7 半夏</b> .....	109
<b>8 柴胡</b> .....	114
<b>9 黄連と黄芩</b> .....	122

<b>10</b> 人参	129
<b>11</b> 桃仁と牡丹皮	134
<b>12</b> 当帰と川芎	138
<b>13</b> 地黄	144
<b>14</b> 大黄と芒硝	148
<b>15</b> 石膏	153

## 第5章 グループをなす処方群

<b>1</b> 建中湯類	156
<b>2</b> 補気剤	161
<b>3</b> 補血剤	168
<b>4</b> 補腎剤	173
◆ 東洋医学と現代科学の関係	178

## 付録

付録1 保険収載処方一覧（本編掲載分を除く）	180
付録2 主な生薬の薬性と守備範囲	187
■ 処方名・生薬名・解説事項 索引	188
■ 適応・主治・症例 索引	193
おわりに	196

## 症例への アプローチ

- 筋肉のつり ..... 71
- 花粉症対応のいろいろ ..... 84
- 感染症における  
診断と治療の関係 ..... 85
- 特発性浮腫 ..... 87
- 麻黄+石膏の組み合わせ ..... 88
- 麻黄+薏苡仁の組み合わせ ..... 89
- 裏寒の治療 ..... 90
- 下痢のいろいろ ..... 92
- 四肢の痛み ..... 92
- 鼻水 ..... 99
- めまい ..... 102
- 全身倦怠感 ..... 104
- 口の乾き ..... 108
- 食道神経症 ..... 111
- 感染性胃腸炎 ..... 112
- インフルエンザ後の不調 ..... 116
- 精神的な要因がもたらす  
往来寒熱 ..... 117
- 気鬱による腹部膨満感 ..... 118
- かぜ ..... 119
- 心臓神経症 ..... 121
- 感染性胃腸炎 ..... 125
- ストレスと手足煩熱 ..... 125
- 脱水 ..... 131
- 便秘 ..... 132
- 発作的な頭痛 ..... 133
- 大腸憩室炎 ..... 136
- 月経痛 ..... 143
- 皮膚疾患 ..... 146
- 便秘 ..... 151
- 過敏性腸症候群 ..... 157
- 脾虚の原因 ..... 163
- 感染症後の食欲不振 ..... 164
- 暑気あたり ..... 164
- 脾虚の1つ～泥状便 ..... 165
- 癌に補剤を用いる根拠 ..... 170
- 呼吸器症状に用いる生薬 ..... 171
- 補血と清熱 ..... 172
- 高齢者に多い手足のほてり ..... 176
- 下肢のしびれに牛車腎気丸? ..... 176

## 臨床のヒント

- 漢方薬の剤型 ..... 32
- 陰陽 ..... 38
- 表裏寒熱は主に感染症を扱う際に  
用いられる尺度 ..... 40
- 証は変化する ..... 43
- 気と寒熱 ..... 49
- 血の概念 ..... 51
- 冷えの原因には4つある ..... 53
- 腹診について ..... 64
- 生薬を味で分類する方法 ..... 72
- 構成生薬の数 ..... 83
- 約束処方を使い方 ..... 83
- 附子を選択する際の決まりごと ..... 93
- 熱薬の守備範囲 ..... 100
- 利水の四品 ..... 107
- 生姜と乾姜の違い ..... 112
- 処方全体の方向性を左右する  
半夏 ..... 113
- 裏熱はどうやって確認するのか ..... 122
- 気鬱はなぜ裏熱をもたらすのか ..... 123
- 手足のほてり ..... 124
- 気の異常への対応方法 ..... 128
- 気の不足は消化吸収機能の  
低下によってもたらされる ..... 130

- 全身倦怠感はいつも気虚と診断できるか? ..... 132
- 桃仁, 牡丹皮は血流改善剤? ... 137
- 不定愁訴とは ..... 139
- 散薬は香りが大切 ..... 142
- 下腹部痛を主治する生薬には2通りある ..... 142
- 漢方薬は長く飲まないと効かない? ..... 143
- 大黄と芒硝が配合されるとなぜ承気湯と呼ばれるのか ..... 149
- 漠然とした気鬱 ..... 150
- 気の異常は日常生活に原因あり ... 152
- 処方名に付けられた大小の意味 ... 158
- 桂枝湯の構成生薬がもつ特性 ... 159
- 五臓の中心に脾あり ..... 166
- 腎虚は syndrome ..... 177

### ◆ 常套的組み合わせ ◆



- ① 桂枝+茯苓 ..... 78
- ② 生姜+大棗+甘草 ..... 81
- ③ 半夏+生姜 (乾姜) ..... 110
- ④ 柴胡+黄芩 ..... 116
- ⑤ 黄連+黄芩 ..... 128
- ⑥ 人參+黄耆 ..... 167

### ◆ 生薬よもやま話 ◆



- 多種多様なカレーは主婦の手で ... 20
- 処方名前と構成する生薬の数 ... 24
- 生薬の分類 上中下 ..... 29
- 甘草の歴史 ..... 73
- 小青竜湯の名の由来 ..... 82
- 茯苓は茯苓 ..... 103
- 蒼朮と白朮 ..... 104
- 家 紋 ..... 105
- 黄 柏 ..... 127
- 人 参 ..... 129
- 紅 花 ..... 137
- 修 治 ..... 147
- 仁のつく生薬 ..... 152
- 君 子 ..... 162

### ◆ Column ◆



- 中庸の意味 ..... 44
- 病名と保険診療 ..... 46
- 古代人がイメージした「気」 ..... 49
- 滞り ..... 51
- 東洋医学の尺度の多様さ ..... 54
- 漢方治療はオーダーメイド治療? ..... 59
- 東洋医学と西洋医学の診断のずれが生むもの ..... 64
- 自然は優しい? ..... 67
- 心とお腹 ..... 160
- 五臓について ..... 167
- バイオミクラー ..... 177